検証前レポートの見方について

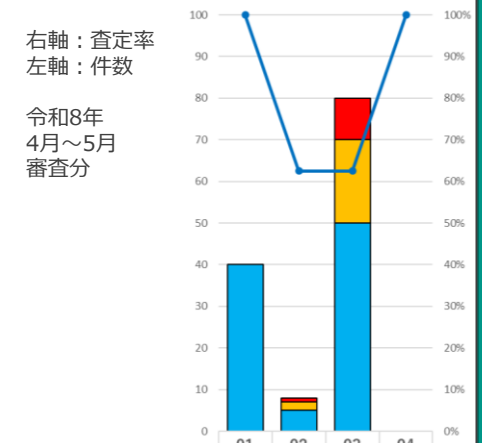
項番	項目
1	トピラマートの算定について

○**国保における取扱い（令和7年3月28日HP掲載）**
他の抗てんかん薬との併用投与がレセプトで確認できない場合のトピラマート（トピナ錠等）の単独投
○**取扱いの根拠**
トピラマート（トピナ錠）の添付文書の「効能・効果」は、「他の抗てんかん薬で十分な効果が認めら
対する抗てんかん薬との
また、当該医薬品のイン
与の経験はない。」と記
以上のことから、併用投

○国保における取扱い
審査における47都道府県国保連合会で共通の取決め内容
○取扱いの根拠
上記取扱いの医学的な根拠
○留意事項
上記取扱いにおける例外的な事例など留意が必要な内容
一部の項目のみに設けられています

○棒グラフについて
当該項目に対応するコンピュータチェックが貼付されたレセプトの総件数とその内訳を示します
- **該当件数**
  下記の３種類の内訳を合計したコンピュータチェック貼付レセプトの総件数
- **赤：請求どおり（職員）**
  審査担当職員が対象項目を査定せず請求どおりとした事例の件数
- **橙：請求どおり（審査委員）**
  審査委員が対象項目を査定せず請求どおりとした事例の件数
- **水色：査定**
  審査担当職員または審査委員が対象項目を査定等適切に処理した件数

○折れ線グラフ（査定率）について
コンピュータチェックが貼付されたレセプトの総件数のうち査定等適切な処理がされた事例の割合（棒グラフ全体に占める水色部分の割合）



	01 A県	02 B県	03 C県	04 D県
該当件数	40	8	80	0
請求どおり（職員）	0	1	10	0
請求どおり（審査委員）	0	2	20	0
査定	40	5	50	0
査定率	100%	63%	63%	100%

○A県
他の抗てんかん薬の算定なくトピラマート（トピナ錠）を単独で算定している事例が40件あり、そのすべてが査定されています

○B県
他の抗てんかん薬の算定なくトピラマート（トピナ錠）を単独で算定している事例が8件あり、職員が請求どおりとした事例が1件、審査委員が請求どおりとした事例が2件、査定された事例が5件あります
全事例（8件）に占める査定率は約63%となります

○C県
他の抗てんかん薬の算定なくトピラマート（トピナ錠）を単独で算定している事例が80件あり、職員が請求どおりとした事例が10件、審査委員が請求どおりとした事例が20件、査定された事例が50件あります
全事例（80件）に占める査定率は約63%となります

○D県
他の抗てんかん薬の算定なくトピラマート（トピナ錠）を単独で算定している事例がない
該当事例がない場合、査定率は便宜上100%と表記しています

※請求どおりとした事例の中には、不合理な差異の原因となる「取扱いと異なる審査」のほか、
然るべき適切な理由の下で請求どおりと処理されたものも含まれます

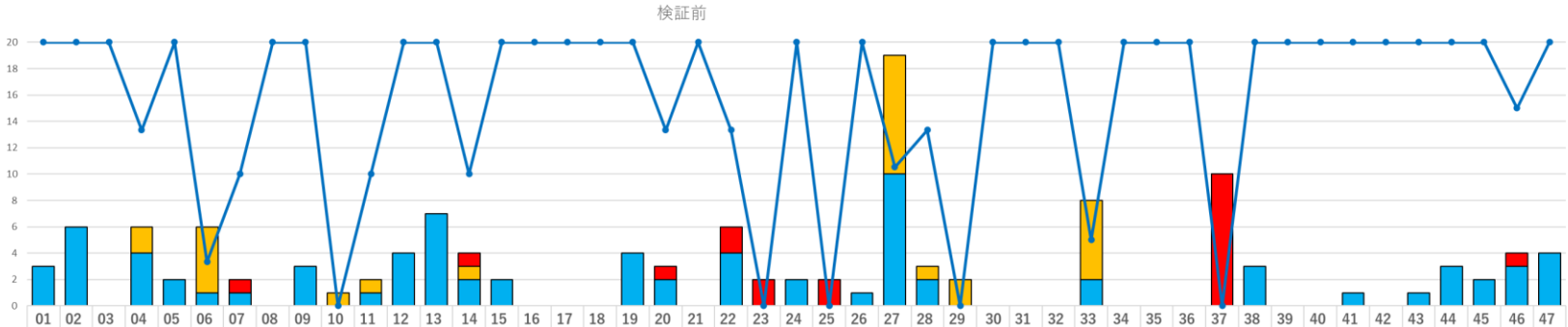
項番１　検証前レポート

項番	項目
1	トピラマートの算定について

○**国保における取扱い（令和7年3月28日HP掲載）**
　他の抗てんかん薬との併用投与がレセプトで確認できない場合のトピラマート（トピナ錠等）の単独投与は、原則として認められない。
○**取扱いの根拠**
　トピラマート（トピナ錠）の添付文書の「効能・効果」は、「他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用療法」であり、「用法・用量に関連する注意」に「本剤は他の抗てんかん薬と併用して使用すること。」と記載されている。
また、当該医薬品のインタビューフォームには、「用法・用量に関連する注意」の解説として、「国内臨床試験は本剤と他の抗てんかん薬との併用で実施され、単独投与の経験はない。」と記載されている。
以上のことから、併用投与がレセプトで確認できない場合のトピラマート（トピナ錠等）の単独投与は、原則として認められないと判断した。

右軸：査定率
左軸：件数

令和8年
4月～5月
審査分



	01 北海道	02 青森	03 岩手	04 宮城	05 秋田	06 山形	07 福島	08 茨城	09 栃木	10 群馬	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	15 新潟	16 富山	17 石川	18 福井	19 山梨	20 長野	21 岐阜	22 静岡	23 愛知	24 三重	25 滋賀	26 京都	27 大阪	28 兵庫	29 奈良	30 和歌山	31 鳥取	32 島根	33 岡山	34 広島	35 山口	36 徳島	37 香川	38 愛媛	39 高知	40 福岡	41 佐賀	42 長崎	43 熊本	44 大分	45 宮崎	46 鹿児島	47 沖縄
該当件数	3	6	0	6	2	6	2	0	3	1	2	4	7	4	2	0	0	0	4	3	0	6	2	2	2	1	19	3	2	0	0	0	8	0	0	0	10	3	0	0	1	0	1	3	2	4	4
請求どおり(職員)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
請求どおり(審査委員)	0	0	0	2	0	5	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1	2	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
査定	3	6	0	4	2	1	1	0	3	0	1	4	7	2	2	0	0	0	4	2	0	4	0	2	0	1	10	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	1	0	1	3	2	3	4
査定率	100%	100%	100%	67%	100%	17%	50%	100%	100%	0%	50%	100%	100%	50%	100%	100%	100%	100%	100%	67%	100%	67%	0%	100%	0%	100%	53%	67%	0%	100%	100%	100%	25%	100%	100%	100%	0%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	75%	100%

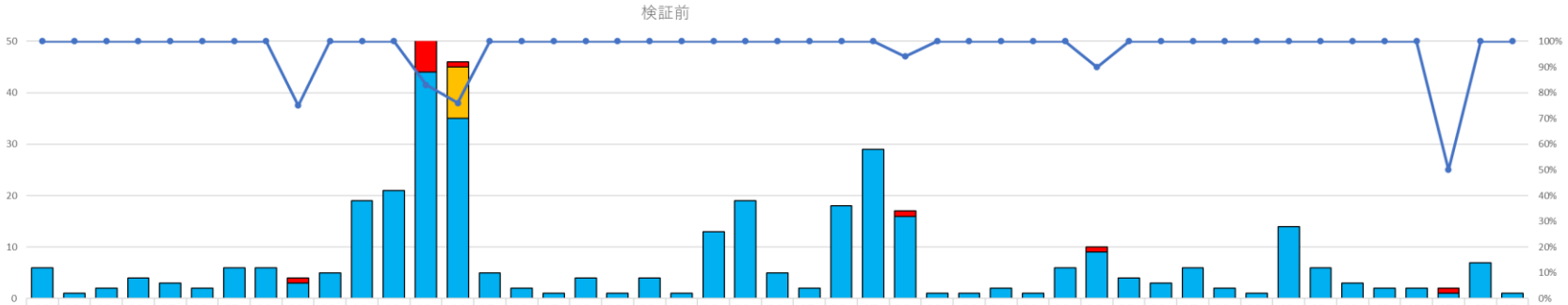
項番２　検証前レポート

項番	項目
2	耳垢栓塞除去（複雑なもの）（両側）の算定について

○**国保における取扱い（令和6年12月26日HP掲載）**
　傷病名に（両）又は（両側）の記載がない耳垢栓塞に対するＪ113耳垢栓塞除去（複雑なもの）「２」両側の算定は、原則として認められない。
○**取扱いの根拠**
　処置料については、厚生労働省告示※に「対称器官に係る処置の各区分の所定点数は、特に規定する場合を除き、両側の器官の処置料に係る点数とする。」と示されており、耳垢栓塞除去の所定点数は、片側と両側それぞれに点数が設定されていることから、「両側」の算定に当たっては、その旨明確である必要がある。
以上のことから、傷病名に（両）又は（両側）の記載がない耳垢栓塞に対する同処置「２」両側の算定は、原則として認められないと判断した。
（※）診療報酬の算定方法

右軸：査定率
左軸：件数

令和8年
4月～5月
審査分



	01 北海道	02 青森	03 岩手	04 宮城	05 秋田	06 山形	07 福島	08 茨城	09 栃木	10 群馬	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	15 新潟	16 富山	17 石川	18 福井	19 山梨	20 長野	21 岐阜	22 静岡	23 愛知	24 三重	25 滋賀	26 京都	27 大阪	28 兵庫	29 奈良	30 和歌山	31 鳥取	32 島根	33 岡山	34 広島	35 山口	36 徳島	37 香川	38 愛媛	39 高知	40 福岡	41 佐賀	42 長崎	43 熊本	44 大分	45 宮崎	46 鹿児島	47 沖縄
該当件数	6	1	2	4	3	2	6	6	4	5	19	21	53	46	5	2	1	4	1	4	1	13	19	5	2	18	29	17	1	1	2	1	6	10	4	3	6	2	1	14	6	3	2	2	2	7	1
請求どおり(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
請求どおり(審査委員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
査定	6	1	2	4	3	2	6	6	3	5	19	21	44	35	5	2	1	4	1	4	1	13	19	5	2	18	29	16	1	1	2	1	6	9	4	3	6	2	1	14	6	3	2	2	1	7	1
査定率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	75%	100%	100%	100%	83%	76%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	94%	100%	100%	100%	100%	100%	90%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	50%	100%	100%

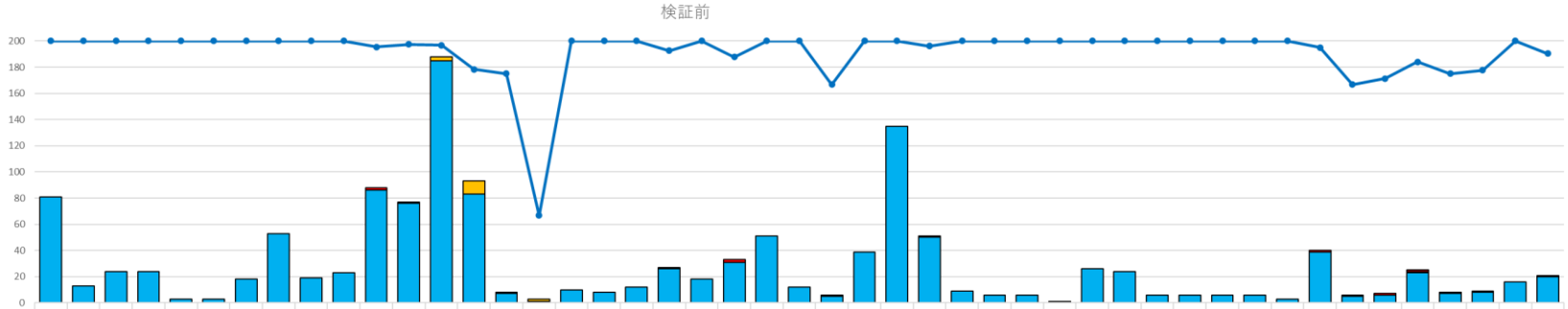
項番３　検証前レポート

項番	項目
3	1型糖尿病（当月確定又は疑い）がない場合の抗ＧＡＤ抗体の算定について

○**国保における取扱い（令和7年3月28日HP掲載）**
　糖尿病で1型糖尿病（当月確定又は疑い）がない場合のＤ008「20」抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗ＧＡＤ抗体）の算定は、原則として認められない。
○**取扱いの根拠**
　糖尿病に対する抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗ＧＡＤ抗体）については、厚生労働省通知※に、既に糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合に算定できる検査である旨示されていることから、1型糖尿病（当月確定又は疑い）がない場合の算定は、原則として認められないと判断した。
（※）診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について

右軸：査定率
左軸：件数

令和8年
4月～5月
審査分



	01 北海道	02 青森	03 岩手	04 宮城	05 秋田	06 山形	07 福島	08 茨城	09 栃木	10 群馬	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	15 新潟	16 富山	17 石川	18 福井	19 山梨	20 長野	21 岐阜	22 静岡	23 愛知	24 三重	25 滋賀	26 京都	27 大阪	28 兵庫	29 奈良	30 和歌山	31 鳥取	32 島根	33 岡山	34 広島	35 山口	36 徳島	37 香川	38 愛媛	39 高知	40 福岡	41 佐賀	42 長崎	43 熊本	44 大分	45 宮崎	46 鹿児島	47 沖縄
該当件数	81	13	24	24	3	3	18	53	19	23	88	77	188	93	8	3	10	8	12	27	18	33	51	12	6	39	135	51	9	6	6	1	26	24	6	6	6	6	3	40	6	7	25	8	9	16	21
請求どおり(職員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	1
請求どおり(審査委員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	10	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
査定	81	13	24	24	3	3	18	53	19	23	86	76	185	83	7	1	10	8	12	26	18	31	51	12	5	39	135	50	9	6	6	1	26	24	6	6	6	6	3	39	5	6	23	7	8	16	20
査定率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	98%	99%	98%	89%	88%	33%	100%	100%	100%	96%	100%	94%	100%	100%	83%	100%	100%	98%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	98%	83%	86%	92%	88%	89%	100%	95%